

2025年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 協同福祉会	代表者	東浦 秀己	法人・事業所の特徴	「あすなら10の基本ケア」を大切にしています。利用者様に、できる事はご自身で継続して行っていただき、難しいところは職員がケアに入り自立支援を行うことで、在宅でも安心して暮らせるようにしています。また小規模多機能型居宅介護だけでなく複合的にサービスを展開しています。
事業所名	あすならホーム郡山多機能型ケアホーム	管理者	萱野 玄也		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	1人	人	人	人	人	7人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会が家族様や事業所、地域とのつながり、関わりをもつ機会と呼びかける。 家族様の意見を聞き、開催日程や時間も検討する。 	家族様やご本人との会話・情報共有は進み、支援経過への記録も定着。一方、急な新規対応や多忙時に十分な事前共有や調整が難しい場面があった。	急な新規相談や多忙時でも情報共有が行えるよう、短時間用の事前ミーティングや共有シート作成、活用してはどうか。	参加できない職員にも共有できるよう簡易アセスメントシートや支援経過に要点を記録する。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 日々の整理整頓、清掃を行い、施設をきれいにする。 挨拶を継続し、明るい雰囲気のある事業所づくりを行う。 	日々の整理整頓や挨拶は概ね継続され、明るい雰囲気づくりに努めているが、忙しい時間帯は落ち着いた環境づくりが十分でないこともある。	忙しい時間帯でも落ち着いた環境を保てるよう、職員同士で声掛けを行い、環境づくりを意識する取り組みを強化してはどうか。	整理整頓と清掃を継続し、利用者対応の合間にも環境確認を行う。特に送迎前後や食事時間など忙しい時間帯には職員同士で声を掛け合う。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 利用者様と一緒に地域行事に参加する。 	挨拶や一部行事参加はあるが、地域行事への積極的参加は少なく、民生委員や地域資源の把握も十分とは言えない状況がみられる。	地域行事や清掃活動などに少しずつ参加し、民生委員や地域資源について情報を把握していく取り組みを進めてはどうか。	民生委員や地域資源について情報収集を行い、ミーティングや資料で職員間共有を行う。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> 地域のイベントへお出かけに行き、地域とのつながりをもつ。 	外出や送迎時の関わりはあるが、自宅や地域に出向く機会は限られ、事業所外での生活状況把握や支援は十分に行えていない。	利用者の生活環境をより理解するために、自宅訪問や地域へ出向く機会を増やして生活状況を把握してはどうか。	送迎時や訪問支援の機会を活用し、自宅周辺の環境や地域との関わりを確認する。生活環境や地域での様子を把握し支援内容に反映する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会が家族様や事業所、地域とのつながり、関わりをもつ機会と呼びかける。 家族様の意見を聞き、開催日程や時間も検討する。 	会議開催や家族様との意見交換は行われているが、地域との双方向の関わりや意見反映は弱く、参加機会の拡充が課題である。	家族だけでなく地域住民も参加しやすいよう開催時間や案内方法を工夫し、地域との意見交換の機会を増やしてはどうか。	開催案内を事前に行い、家族や地域住民が参加しやすい日時を検討する。会議では出た意見を職員間で共有し、可能なものは事業所運営や支援内容に反映する。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方も交えた訓練を実施する。 	感染対策や内部対応は実施できているが、地域住民を交えた防災訓練の実施は十分でなく、地域連携の強化が今後の課題である。	災害時の協力体制を作るため、地域住民や関係機関と連携した防災訓練を実施してはどうか。	年1回以上の防災訓練を計画し、可能な範囲で地域住民や関係機関へ参加を呼びかける。避難経路や役割分担を確認し、訓練後は振り返りを行い課題を整理する。

